

製品名: ABL2 マウスモノクローナル抗体

カタログ番号: AMM85980

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500
分子量	128.3kDa

抗原情報

遺伝子名	ABL2
別名	Abelson tyrosine-protein kinase 2, Abelson murine leukemia viral oncogene homolog 2, Abelson-related gene protein, Tyrosine-protein kinase ARG, ABL2, ABLL, ARG
遺伝子 ID	27.0
SwissProt ID	P42684
免疫原	この ABL2 抗体は、組み換えタンパク質で免疫化されたマウスから生成されます。

背景

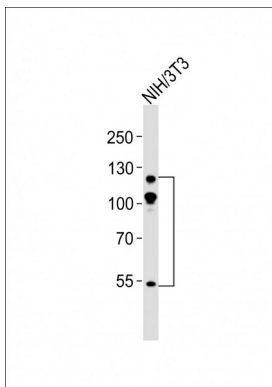
細胞外刺激に対する細胞骨格リモデリング、細胞運動および接着、受容体エンドサイトーシスなど、細胞の成長と生存に関連する重

要なプロセスにおいて、ABL1 と重複する役割を果たす非受容体チロシンタンパク質キナーゼ。MYH10 (運動に関与)、CTTN (シグナル伝達に関与)、TUBA1 および TUBB (微小管サブユニット) などの細胞骨格ダイナミクスを制御するタンパク質のチロシンリン酸化を介してアクチンリモデリングを調整します。F-アクチンに直接結合し、F-アクチンを束ねる活性を介してアクチン細胞骨格構造を制御します。CRK、CRKL、DOK1、ARHGAP35 など、これらのプロセスの重要な制御因子のリン酸化を介して、細胞接着と運動の制御に関与します。ARHGAP35 の接着依存性リン酸化は RASA1 との会合を促進し、ARHGAP35 を細胞周縁部にリクルートして RHO を阻害します。PDGFRB などの複数の受容体チロシンキナーゼや、RIN1 などのエンドサイトーシス制御に関する他の基質をリン酸化します。脳では、シナプスでタンパク質をリン酸化することで神経伝達を制御していると考えられます。ABL2 は感染時に複数の病理学的シグナル伝達カスケードの調節因子としても機能します。病原体は ABL2 キナーゼシグナル伝達を乗っ取り、宿主のアクチン細胞骨格を再構成することで、細胞内移動や宿主細胞からの脱出を促進するなど、複数の目的を達成することができます。最後に、自己触媒活性および阻害因子である ABI1 のリン酸化を介して、自身の調節因子として機能します。

研究分野

-

画像データ



抗 ABL2 抗体 (1:500 希釈) + NIH/3T3 全細胞溶解液